

学術フォーラムの概要について（事後報告）

1 名称：東日本大震災がもたらした食料問題を考える

2 日本学術会議以外の共同主催団体等：

- ・共催：東日本大震災に係る食料問題分科会、水産学分科会、農業経済学分科会、農業情報システム学分科会、農芸化学分科会
- ・後援：日本農学アカデミー、日本水産学会、日本農業経済学会、日本農芸化学会、農業機械学会、東京大学大学院農学生命科学研究科アグリコクーン

3 開催日時：平成 24 年 11 月 21 日（水） 13 時 20 分～17 時 30 分

4 開催場所：日本学術会議講堂

5 開催趣旨：

平成 23 年 3 月 11 日に東北太平洋沖で発生した大地震は巨大津波の襲来をもたらし、沿岸地域の農林水産業を一瞬のうちに破壊した。さらに、巨大津波の直撃を受けて漏洩した東京電力福島第一原子力発電所の放射能は、農林水産業に対して広域にわたって長期的に多大な影響をもたらすことが危惧されている。このような背景の下、農林水産業においては安全な食料の早急な供給回復が求められており、さらに、長期的な視野に立つ食料の安全対策も重要な課題となっている。そこで、食料科学の立場から現状を分かりやすく説明しようという趣旨で開催された。

6 参加人数：

講演者等：7 名

その他の参加者：237 名

7 特記事項：

- ①事前の参加申し込みが広報開始直後から順調にあり、早めの募集定員超過となるなど、テーマへの関心の高さがうかがえた。
- ②報告それぞれに対して分野を超えた熱心な意見が寄せられ、食料・農林漁業分野における震災復興・放射線汚染対策への科学の貢献に対する社会の期待の強いことがあらためて確認された。
- ③フォーラムの提案母体である「東日本大震災に係る食料問題分科会」でさらに議論を深め、次年度も同様のフォーラムを開催する方向で検討を進めることとした。